

# しろや！ 広島城

Let's know Hiroshima Castle.

No.13

ひろしま歴史の小耳 13

(「広島城の50年シリーズ⑤」)

## 昭和から平成へ

### 築城400年と展示更新



改装工事で休館中の広島城

#### (1) 展示更新

昭和33年(1958)に広島復興大博覧会の第三会場として再建された広島城天守閣は、博覧会終了後も広島城郷土館として市民に親しまれてきました。しかし、その後20年以上の年月を経て、次第に展示場としての魅力の低下が指摘されるようになりました。

そうした中で昭和58年(1983)に「広島市博物館群構想」が打ち出され、そこで広島城郷土館は武家文化を中心に明治維新までの広島を扱う博物館という位置づけがなされました。これを受け、毛利輝元による広島城の築城から400年目にあたる昭和64年=平成元年(1989)に向けて、天守閣の集中的な整

備と展示の更新を図ろうということになりました。こうして昭和61年度から部内検討が進められ、翌62年9月には展示検討委員会が発足、63年11月に内部改修工事・展示工事が始まりました。これにともなって、広島城郷土館は昭和63年11月4日から平成元年4月14日まで5か月余り休館し、毛利輝元が広島城築城のための鉄初めを行なった日とされる天正17年(1589)4月15日からちょうど400年目にあたる平成元年4月15日、新たに「広島城」の名で開館しました。



改装工事中の天守閣内(第二層 武家屋敷付近)

#### (2) 新しい展示の内容

展示の更新にあたっては、「城下町広島の発展とくらし」を総合テーマに、第一層は「広島城の成立と役割」、第二層は「城下町広島のくらしと文化」をテーマとしました。これにより、それまで第二層にあったナウマン象の化石や動植物標本などの自然史系の展示がなくなって歴史系・人文系の展示だけになるとともに、第三層の武具・甲冑展示とあわせて広島城は江戸時代までの武家文化に焦点を絞った施設になりました。

新しい展示では、第二層に武家屋敷と商家、茶室を再現し、城下町の生活のようすが空間的に体感できるようにしました。また、架空のキャラクター「忍者芸州斎」が広島城天守閣の模型をバックに広島城の築城について語る映像装置をはじめとして、模型や

映像・展示パネルと実物資料を織り交ぜて広島城と広島をわかりやすく紹介しました。また、外国人観光客のために、展示パネルやネームプレートには英文を併記し、映像の音声は英語の音声を副音声としてヘッドフォンで流すようにしました。

こうして、今みなさんが目にする広島城の展示の原形ができあがりました。



新しくなった展示（第二層 祭りのコーナー）

### (3) 開館式当日のようす

開館式当日（4月15日）の朝午前10時から、広島城天守閣下に設けられたステージで広島城築城400年記念式典が行なわれました。式典には、荒木広島市長（当時）をはじめとして約200人が出席し、市長のあいさつに続いて広島市弓道連盟の射手によって清めの矢が放たれました。その後、市長・教育委員長・市議会議長の3人によって、広島城二の丸復元工事の開始を告げる鍬入れ式が行なわれました。二の丸復元工事は、このあと城の表玄関にあたる表御門の復原と御門橋の改修から始められ、次いで平櫓・多聞櫓・太鼓櫓が復原されて平成6年9月に完了しました。

さて、二の丸復元工事の鍬入れ式に引き続いて、天守閣前で広島城の開館式が行なわれ、市長・市議会議長に毛利家当主三男の毛利元保氏と浅野家代理として広島藩の家老を務めていた上田家の当主上田元重氏が加わってテープカットを行ない、新装なった広島城が公開されました。広島城天守閣内の第四層企画展示室内では、記念事業として「毛利氏ゆかり展」が5月5日まで開催されました。また、こ

の日から4月23日までの9日間、広島城跡一帯で鯉城歴史まつりが開催され、大勢の人でにぎわいました。



テープカットのようす（向かって左端が荒木市長）

ところで、広島城築城400年にあつた平成元年は広島に市制が施行されてからちょうど100周年にもあつたため、これらを記念して「海と島の博覧会・ひろしま」（7月8日～10月29日、西区商工センター東ほか）や「街と暮らしのミュージアム」（8月17日～29日、八丁堀の福屋8階催し物会場）などさまざまな催しが開催されました。『図説広島市史』が刊行されたのもこの年です。

その一方で、この年は広島城がリニューアルオープンしたほか、以下の施設をはじめとして広島市内でたくさんの新しい施設がオープンした年でもありました。

現代美術館（5月3日）

東区スポーツセンター（5月7日）

国際会議場（7月1日）

健康づくりセンター（9月21日）

西区民文化センター・西区図書館（10月28日）

森林公園（11月3日）

昭和から平成へと元号がかわつた平成元年（昭和64年）は、広島城にとつても、広島市にとつても節目となる華やかな年だったので。（村上）



天守閣下に設けられた鯉城歴史まつりのステージ



**がんばってます！**

## **広島城ボランティア「樹木調べ隊」と広島城内の樹木**

広島城のボランティアと言えば、ほとんどの人が歴史系を連想されると思います。確かに広島城にも歴史系ボランティアの方たちがおられますが、今回は、広島城ボランティア「広島城樹木調べ隊」について述べさせていただきます。「樹木調べ隊」の担当には本田学芸員と私(谷)が当たります。

広島城には、たくさんの樹木があることはみなさんもご存知だと思います。その広島城跡内にある樹木を広島城樹木調べ隊のみなさんが、コツコツと調査していきます。いずれは、樹木調べ隊の方々を中心に広島城跡内のしおりとして樹木地図と名板を作ってください。みなさんとても熱心で、現在樹木の特徴などを書いたカードと樹木の場所を記した地図を作成中です。



樹木調べ隊による初めての樹木ガイド

7月21日の「探ろう広島城」が、「樹木調べ隊」のみなさんの樹木ボランティアガイドのデビューとなりました。この日のガイドはユーカリなど被爆樹木3本を含めた10本の樹木を8名がガイドをされました。みなさん初めてとは思えないほど落ち着いて、自分が担当した樹木をしっかりと説明されていました。

樹木が好きな私は、昨年広島城に勤務になって来た際に、大きな樹木がたくさんあったので癒しの気分でホッとしたものでした。早速、私なりに広島城跡内の樹木を見て歩いたら、約65種類、1,200本余りの樹木がありました。その中には、被爆樹木のクロガネモチ、マルバヤナギ、ユーカリの3本があります。珍しい樹木として、チシャノキ、ナギ、マルバアオダモ、ナナムノキなど、食べられる果実がなる樹木として、ナシ、ビワ、ヤマモモ、ウメなどがありました。



昨年広島城跡内で実ったナシの実

なかでも今年のナシは、枝が折れそうなくらい豊作で、約1,000個実りました。ボランティアの方と一緒に、少しでも大きな果実がなるように摘果をしたり、カラスなどの鳥にとられないようにと手に届くところのナシに袋掛けをしました。

現在は、袋掛けをした80個しか残っておらず、日々カラスと戦っていますが、少しずつ減っています。そのためにも、残ったナシが「できるだけ大きく、美味しくなりますように」と祈っています（実際には、直径約7cmぐらいにしかありません）。9月下旬の活動日に、ボランティアのみなさんと食べる予定です。

広島城跡内で一番多い樹木は、サクラのソメイヨシノで約280本。ほかに広島城跡内のサクラには、ミクルマガエシ、ヒカンザクラ、ヤマザクラ、イヌザクラがあります。

広島城ボランティア「樹木調べ隊」のみなさんには、樹木をもっともっと好きになってもらい、楽しみながら、末永く見守っていただきたいです。

(谷)



今年咲いたミクルマガエシ

## 城下町こぼれ話

### 城下に出た妖怪たち

残暑が続きますが、涼しくなる(?)話を一つ。広島に妖怪の話というと、三次藩士稲生平太郎が出会った妖怪たちが有名ですが、広島城下にも怪しい者たちが出没していました。

もっとも有名なのは「バタバタ」。実はバタバタは冬に限って現れました。場所は当時の白神六丁目(現在の中区大手町三・四丁目)で、日が暮れる頃にムシロを叩くような音が聞こえてきます。音がする方に近寄れば音は遠ざかり、引けば逆に近寄ってくる……バタバタはこんな姿無き妖怪だったのです。宝暦8年(1758)の城下大火の後に出現するようになり、何度か捕獲作戦がとられました。結局その正体を見た者はいませんでした。広島だけでなく、その評判は諸国に伝えられたようです。



タカノ橋商店街入り口にあるバタバタの像

なお、このバタバタは石に宿る精であるとも言われていました。かつてバタバタが出没した地域のタカノ橋商店街では、商店街の発展のシンボルとしてこの石の精のイメージ像を造り、商店街の入り口に設置しています(左下の写真)。

今では考えられないぐらい色々な動物が生息していた城下には、人を化かす狐も出ました。広島城の八丁堀にあった京口門から城内に入ると、その北側には外堀の土手に沿って栗が植えられており、栗林と呼ばれていました。ここにはキツネが住みついでいて、夜間堀端を通りかかったソバ屋が、人間に化けたキツネにたびたびソバを食われたそうです。その他にも城内には多くの狐や狸が住み着いていたようで、いたずらをしたり、時には人に化けるとも言われていました。

今風でいうところの心霊スポットも存在しました。当時は侍屋敷地であった幟町に「藪小路」とよばれた小路があり(おそらく幟町小学校の東側)、ここはユウレン(幽霊)が出るとして有名で、当時の広島人から「出そうで出んのが藪のユウレン」という俗謡ではやされていました。

また、都市伝説とも言うべき話も残されています。嘉永7年(1854)のこと、ある老婆が話題になりました。夜になるとこの老婆が酒を売りに来るのですが、老婆が酒を買うか買わないかを聞いた時、これに返答したら即死するとのこと! 当時の人々は震え上がり、この老婆を避ける効果がある赤いお札を家に貼り付けたのでした。この騒ぎに便乗して、老婆の声をまねて人を驚かさず不届き者もいたとか。

その他、まだまだ怪しい話がありますが、涼しくなりすぎるといけないので、この辺にしておきましょう。(本田)

しろうや  
!  
広島城

No.13

編集・発行

財団法人広島市文化財団 広島城

730-0011

広島市中区基町21-1

電話:082-221-7512

FAX:082-221-7519

平成19年8月31日発行

#### 広島城利用案内

開館時間:9:00~18:00

(12月~2月までの平日は9:00~17:00)

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料:大人360円(280円)

小人180円(100円)

( )内は30名以上の団体料金

休館日:12月29日~1月2日

ホームページ: <http://www.mogurin.or.jp/rijo.html>